

車用電子防錆システム

「ラストアレスタ」

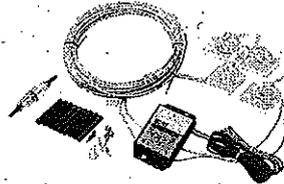
パーツ全て日本製に

ヒット・インターナショナルR A Jカンパニーは、車両用電子防錆システム「ラストアレスタ」のリニューアル（写真）を実施した。

米国で開発された「ラストアレスタ」は、塗装表面に微弱電流を流すことにより、車全体を電子のバリアで覆い、錆の発生を防止するシステム。新車時はボディがきれいに塗装で覆われているが、酸性雨や土砂などの汚れにより、視覚的に確認できないミクロの穴ができてしまうもの。そうした小さな傷や穴など

から酸化が進み錆へとつながってしまう。そこで「ラストアレスタ」の微弱電流を用いることで、ボディをくまなくカバーし、錆の原因である酸化を抑制する。

特に悪路を走るケースの多いトラックやSUVで大きな効果が確認されており、10年に及ぶロン



また、今年10月に予定されている消費税引き上げに備え、価格を改定し、外税表示として

グヒットを続けている。また、金属に電子を補充することで、車体の硬度を上げ、塗装の劣化や変色を防ぐ効果も持つ。結果、乗用車でも新車時の光沢を長期間保ち続けることができる。

今回のリニューアルでは精度を高めるために、詳細なパーツまで全てを日本製に変更。さらにケールを圧着する端子に改良を加えるとともに、説明書も見直し、装着の仕方を分かりやすくした。

いる。価格は軽自動車及び小型車用の12V2チャンネル「RA02」が6万4千円、ワゴン車及UV用の12V4チャンネル「RA04」が8万800円、トラック・バス用の24V6チャンネル「RA06」が9万8千円、特殊車両（ダンブカー、建設機械など）用の「RA09」が13万6千円、特殊車両（クレーン、大型車両など）用の「RA12」が17万8千円。一時的に

は高額な出費となるが、「ラストアレスタ」を一度装着すれば、バッテリーから電力の供給を受けて半永久的に車体を守り続ける。もちろん、バッテリー上がりを防ぐオートストップパーも装着している。実質的なランニングコストがかからない。同社では塩害被害の多い沿岸地域や、雪や結露などの影響で錆が発生しやすい降雪地への訴求を強めていく考えだ。